

【福島市】

会 議 名	平成30年11月8日定例記者会見
日 時	平成30年11月8日（木） 午前10時～10時30分
場 所	庁議室

発言者	内 容
広報課長	<p>開会 定刻になりました。ただいまから定例記者会見を始めます。本日は発表事項が3件となっております。それでは市長、お願いいたします。</p>
市長	<p>市からの発表事項 福島圏域11市町村による協議会を新たに設立、広域連携を強力に推進します！ ～（仮称）福島圏域連携推進協議会設立総会開催～ おはようございます。今日は3件あります。まず1点目は、福島県域の11市町村による協議会を新たに設立いたしまして、広域連携を強力に推進するというものであります。 皆さんご承知の通り、人口減少・少子高齢化が進む中で、我々市町村においては市町村単独での取り組みに加えて、近隣の市町村が相互に連携をして広域的に取り組むというのが大変重要になってきております。福島圏域ではこれまで、首長懇話会というのを設けて、これは福島市より北側の7つの市町村で実施をしておりましたが、この度この懇話会というものを発展的に解消いたしまして、そして新たに福島圏域連携推進協議会というものを設立するというものであります。設立は、19日の午後4時半からを予定しております。ホテル辰巳屋で行います。設立後の主な取り組みとしては、4番目にありますように、観光連携とか移住定住促進事業、それからリーサス等を活用した自治体合同研修、それからホームページの相互リンクとか、あるいはオリパラの関連事業等といったことを当面予定しておりますが、今後さらに取り組みを推進してまいりたいと思います。特徴といたしましては、これまでの懇話会はいくまでも懇話会ですから、首長が話し合うことがメインになっていたわけですが、この協議会はこれまでの7市町村に加えまして、福島市より南の旧安達郡の地域、二本松市、それから本宮市、そして大玉村にも参加をいただいて、そしてそれぞれが皆さん、一定のルールに沿って負担金を拠出して、しっかりと広域的な事業を推進していくという実質的な連携の事業をしたいという形にな</p>

【福島市】

っております。

また、東北中央自動車道を通じて結びつきが深まりました米沢市にも呼びかけまして、米沢市にはオブザーバーという形で、必要に応じて様々な形で事業などに加わっていただく他、ご意見などもいただけるようにという仕組みにいたしております。出席は各それぞれの構成首長、それから米沢市の他オブザーバーとして県の県北地方振興局長にもご出席いただく予定であります。なお本協議会では、リード文の一番最後にあります通り、やはり連携協議会というだけではなくて、今後は連携中枢都市圏の形成というのも重要な課題になってくると思っております。構成市町村で議論を重ねながら連携中枢都市圏に向けての模索を図っていきたいと考えております。

状況をご説明いたしますと、広域の仕組みというのは、かつて昭和の時代からいわゆる広域市町村圏という仕組みがあったのですが、福島圏域では平成23年にすべてそういった仕組みは解消しております、その点では組織的なものというのは無くなっておりましたので、この度改めてこういった組織をきちっと作って、広域的な連携を推進していきたいと考えております。

A・O・Z来館者500万人達成記念講演会

長沢裕トークショー～福島から元気発信～

続きまして2点目ですが、おかげさまでアクティブシニアセンターA・O・Z（アオウゼ）、開館8年目にして来館者500万人を、去る11月3日に達成をいたしました。これを記念いたしまして、本市にあります橘高校の出身、卒業生である伊達市出身のフリーアナウンサー、長沢裕さんをお願いをいたしまして、トークショーを行うということです。

こちらがチラシになっておりますが、こういった内容であります。地元の福島での思い出とか、あるいは今まで活動されてきたお話しを中心にトークショーを行っていただくというものであります。期日は11月17日、午後1時半から2時半までということで、アオウゼで実施をいたします。入場無料、あるいは申し込みも不要ですので当日ご来館いただきたいと思います。

平成30年度福島市技能功労者表彰式

～福島市の「名工」を表彰～

続いて3点目になりますが、平成30年度の福島市の技能功労者の表彰式を行うというもので、福島市の名工を表彰するというものであります。

日時は11月10日、午前10時からということになっておりま

【福島市】

	<p>す。こちらでもアオウゼで開催をいたします。今年度の受賞者は別紙の通りになっておりまして、12名の方に表彰をし、銀杯等を贈呈するという内容になっております。そして併せて、名工による作品の展示や、大人から子どもたちまで楽しめるものづくり体験教室を開催いたしますので、ぜひものづくりを多くの皆様方に楽しんでいただきたいと思います。私からは以上であります。</p>
広報課長	<p>質疑応答</p> <p>それではただいまの発表事項につきまして、質疑応答に移ります。ご質問がありましたら挙手、指名ののち、社名とお名前をおっしゃっていただきご発言をお願いいたします。それではご質問をお願いいたします。</p>
記者	<p>広域連携について伺いたいのですけれども、手続き的には国とか県に何か届け出はするのでしょうか。</p>
市長	<p>特に必要ありません。</p>
記者	<p>あとこの設立後の取組みで、今のところソフト事業を主に想定されているようですけれども、ハード整備みたいなことを共同でやるのか、そういう考えは今のところあるのでしょうか。</p>
市長	<p>特段今のところ考えておりません</p>
記者	<p>負担金についてなのですけれども、人口規模も結構違うと思うのですが、どういうルールで出し合うのかということをお聞かせください。</p>
市長	<p>はい。具体的にはまた事務方からお聞きいただければと思いますが、均等割と人口割という形でルールを決めて負担金を拠出していただきます。</p>
記者	<p>そうすると協議会としての予算はどのくらいですか。</p>
市長	<p>当面は300万円ぐらいを予定しております。</p>
記者	<p>この300万円を均等部分と、人口において振り分けるという形で。</p>
市長	<p>そうですね。あと、事業の実施形態は非常に柔軟なやり方を考えておりまして、要するにいつもこの構成10市町村でみんなが同</p>

【福島市】

	<p>じ関心を持ってやれるというのは必ずしもないと思います。その点では、そのうちの一部でやる場合、例えば広域圏で全部出すのではなくて、それぞれの実施する市町村が負担しながら広域も一部出すとか、いろいろな柔軟な形で我々広域的な連携を深めていけたらと考えております。</p>
記者	<p>あの、オブザーバーとして米沢市が入るという事ですけども、細かいんですけどオブザーバーも負担金はあるのでしょうか。</p>
市長	<p>いや、それは必要ありません。</p>
記者	<p>では10市町村で出し合うという形で。</p>
市長	<p>そうですね。</p>
記者	<p>あと首長の懇話会というのは、いつから始まったのでしょうか。</p>
担当課	<p>これは平成28年度に第1回開催となります。</p>
記者	<p>その主な活動はどういうことをやられたのでしょうか。</p>
市長	<p>懇話会は基本的にはまず、首長が話し合っただけで今回のもとになっている合同研修とか相互リンクのようなことは話し合いの結果として実施をしておりました。</p>
記者	<p>引き続き広域連携の話になりますけれども、先ほど説明があった、元々はその首長懇話会の時の7市町村、7自治体から今回二本松とか大玉とか、福島市より南側まで範囲を広げて声をかけたという事なのですが、このあたりの経緯と、また福島市がこれまで7自治体からさらに広げていきたいという意図をお話しいただきたいと思います。</p>
市長	<p>そもそも今回の10市町村、これには実は宮城県の白石市も入っているのですが、白石市（と飯舘村）を除いた市町村というのは、もともとは県北の広域圏として一体だったわけです。だから県の県北地方振興局のエリアというのもある意味この二本松市、本宮市、大玉村も入っているわけです。実際のところは、首長懇話会の時に声はかけました。そのうえでオブザーバー参加という形になってはいました。ただ私はやはり、これから広域の連携は重要だとずっと考えておまして、これは私の公約でもありますけど、就任早々から広域的な取組みは、こういったものを米沢市も</p>

【福島市】

	<p>含めて呼びかけておりました、今回もこういう連携推進協議会を作ろうということで、首長懇話会で提案をして、了承していただいて以降も、やはりこういったところと取組みをすることが必要だと声掛けをさせていただいて、それぞれのところからも快諾いただいたという結果であります。米沢市は、これまではオブザーバーにも入っていませんでしたが、こういう結びつきの中で、我々も観光の事業、この間の社会実験、今もやっていますが、そういったことも一緒にやるような関係が深まってきておりますので、そういった点で米沢市にもオブザーバーという形で意思表示をいただいたということでございます。</p>
記者	<p>将来的な課題というか、視野に入れているところとして連携中枢都市圏という話もありましたが、これについてもこれまでの7自治体での首長懇話会のときよりも、さらに広げて二本松とか大玉とかにも声をかけていくと、そういった形になるのでしょうか。</p>
市長	<p>はい。かけていくというか、この協議会で連携中枢都市圏のあり方といったものを協議していきたいと思いますので、そうした中で連携中枢に向けた話を熟成させていきたいと思います。私としては、やはりこういう取組みを始めましたので、福島市としては出来る限りこういった今の枠組みの中で構築していきたいとは考えています。</p>
記者	<p>例えば本宮市さんあたりは、郡山からも声をかけられたという話でなかなか昔から本宮は結構いいところなので両方から綱引きみたいなのところがありますが、その辺についてはどんな感じなんでしょうか。</p>
市長	<p>連携中枢都市圏は、どこかに一つでなきゃいけないということではないです。ダブルで入っていいんですね。今は本当にいろいろな市民生活あるいは経済活動、いろいろな形で輻輳しています。だからスッパリ切るという事自体が逆に現実を反映していなくて、私はおかしいだろうと思います。その点では、本宮市とか大玉村が両方に入ってそれぞれ連携できるところを連携するという事をするのは、私は当たり前だし、それはそれで非常にいいのではと思っております。ちなみに非常に面白いのは、例えば行政とすれば、例えば県北であれば県北の圏域に入るわけです。ところが警察は違ったりしているわけです。それから地元の民報、民友新聞社さんのエリアが実は違うという話を聞いています。そういう面でもいろいろなものが輻輳しているので、あまりそれを我々が区切るということは、これはおかしいだろうと思います。</p>

【福島市】

記者	では本宮とか大玉の各自治体に対しても相互に入ることによるメリットというものあるというか、そういうものも強調して・・・。
市長	というか強調というよりは、どちらも福島圏域に入る、良いということをお認めいただいで今回ご参加いただいておりますので、やはり我々より南の、いわゆる安達地方の3市村も福島の圏域での連携の意義というものをそれなりに十分認めた上での今回のご参加だというふうに受け止めております。
記者	連携中枢都市圏の構想自体は何か時期が決まっているような話はないと思いますが、いつぐらいまでの形成というのを考えていますか。
市長	はい。そこは特段時期的には区切っておりませんが、やはり連携中枢都市圏になるメリットはそれなりにありますし、経済界を中心に期待されている部分もありますので、無理はしない程度に早くいろいろ議論は深めていきたいと思っております。
記者	これまでの県北の一つの連携という事で、食堂のフェアだったりとか進めてこられたかと思っておりますけれども、今回協議会を設立することによる、市長が期待している効果というものを改めてお聞きしたいのですが。
市長	はい。やはりこれまではある意味単発で事業をやっているような格好になっておりましたけれども、やはりこういう組織化をするということで、よりつながりが深まる、あるいは広域連携が必要だという意識が深まる点は、私は非常に大きいのかと思っております。やはりそれぞれがうまく相互補完、連携しながらやらないと人口減少時代に人口が定着していけるような、そういう圏域を作れないと思っております。その点では、今後の地方創生といいますか、我々の県北地域の創生を図っていく上でこういう広域的な絆をしっかりと作ることは大きな意義があると考えております。
記者	協議会で、連携中枢都市を形成するという事で何かしらビジョン的な、なんていうか一つの目標みたいなものはここで定めていますか。
市長	協議会でやるのかどうかはまだ議論はしてはおりませんが、当然連携中枢都市圏を作るとすれば、どういう理念に沿って連携中枢都市圏を構築していくのかというのは当然考えないといけないと

【福島市】

	いうふうには思います。
記者	それはやはり福島市さんが主導して作っていききたいという・・・。
市長	主導というか基本的には全員で、個性メンバーで対等に話し合うということではありますけれども、色々なお世話役は我々が受け持つことにしていますので、そういった面で共通の理念の構築に向けて、福島市としては汗をかいていききたいと思います。
記者	連携中枢都市圏と似たようなものとして定住自立圏というものがあつたと思うのですけれども、連携中枢都市圏のほうにするということの理由というか意味というものと、あとその中心市的な役割を福島市が担うということなのですが、先ほど市長が、今相互に補完・連携していければというお話しでしたけれども、その中でもこの顔ぶれを見てもわかるように、福島市が果たすべき役割というものは大きいと思うのですけれども、補佐役、事務局は置くという事ですけれども、その事務方機能以外でもこの11市町村を引っ張っていくうえで福島市が果たそうとする役割みたいなことを教えてください。
市長	はい。定住自立圏ではなくて連携中枢都市圏は、中核市でないと、中核市以上にならないとそういうものは採用できないわけです。その点では中核市ならではのステータスにもなりますし、それからやはり財政措置とか、そういうフレームがかなり違ってまいりますので、その点では圏域全体としての取り組むメリットとしては連携中枢都市圏のほうが大きいと私は考えております。それから私は、基本的な立場としては、この構成市町村は対等ですと。その上で福島市がなんだかんだ言って中心になるのは間違いありませんので、中心都市として汗をかいていきたくて思っておりますが、事務局機能以外には、我々は地域の定住とか活性化の核にならなければならないと考えております。だからこそ現在進めております、中心部の公共施設の再編、戦略的な再編整備とか、まちづくりを進めているわけでありまして、特にああいう中心部というのは色々な方が利用できる、いわゆる高次都市機能というのですが、そういったものを集めていかないとこの地域に人が定住しない、定着しないわけです。だからそういう広域的に利用されるサービスというのは、福島市はとりわけ充実させて、皆様にご利用いただきたいと思っております。こうやって我々が他の仲間の近隣の地域に貢献することで、ある意味やはり皆さんが買い物とかで福島市をご利用いただければ福島市にもメリットは当然出てまいりますし、そういった役割を

【福島市】

記者	<p>しっかりと私としては演じていきたいと思っております。</p> <p>どうしても福島県内だけで見ると、郡山とか関東に近いところに経済の中心みたいな比重が置かれがちですけど、福島市としては県南に対する逆襲というか、こっちも風格ある県都と福島ではよく言っておりますけれども、県内の発展のバランス、発展の均衡を取り戻すというような狙いが実はあるのかと思うのですが、その辺は何かあるのでしょうか。</p>
市長	<p>そういう地域間は、お互いに競争してよくなればいいと思いますし、あとはなんといってもちょっと、福島市駅前中心の元気がなくなってきたというのが一般的な評価で、ある意味言われるわけですけども、もとはといえば、昨日も実は福島大学でお話したのですが、なぜ福島市に県庁が置かれたかということ、単なる戊辰戦争のあやで置かれたわけではなくて、福島市がそれだけ養蚕業とか製糸業を中心に経済が集まっていた場所だからこそ、実は県庁が置かれているわけです。当時は東北本線の縦の軸と奥羽本線からなる軸が交わるのが福島で、ある意味では南東北の最大の集積が福島だったわけです。今回も白石市と米沢市も入れば全体約60万人の都市圏になりますので、そうすると大体郡山の都市圏と同じくらいになりますので、その点では我々もこれから改めて今東北中央自動車道が開通をして、郡山市に負けないような交通の結節点としての環境が整いましたので、お互い競争をしながらこの2つの都市圏、あるいは、いわきもそれなりに大きな都市圏ですし、会津には会津若松市を中心に都市圏があって、そういう都市圏が一つのそれぞれの地域の核になって、福島県全体の地方創成が進めば私は非常に良い展開ではないかと思っております。</p>
記者	<p>この11市町村の協議会なのですが、設立後の取組みにオリンピック・パラリンピック関連事業というものも入っているかと思うのですが、ホストタウンとかいろいろ、福島市、飯舘村とかも入っているところがあると思うのですが、そういったところでもなにか考えていらっしゃるかどうかそういった部分、これからの部分もあるかとは思いますがいかがでしょうか。</p>
市長	<p>はい。それぞれホストタウンに取り組むようなところもありますが、やはりこの地域で一番突出しているのは、福島市でオリンピック競技が開催されるということだと思います。ぜひその喜びとかメリットは、福島圏域だけではないですけども、とりわけ福島圏域には私はできるだけ共有をしたいと思っております。</p>

【福島市】

	<p>私が前から話をしておりますが、全国的な聖火リレーは福島県出発、スタートということで行われますけれども、3日間とはいえそれぞれの町を通るのは非常に短い時間でしょうから、私自身は独自の聖火リレー的なものやりたいと思っていて、それは福島市だけではなくて広域でやれたら非常にいいかと考えております。それから、ホストタウンに取り組んでいる市町村が、それなりになにか連携して取り組んでやるというのも一つのアイデアではないかと思いますが、そこは我々も、あるいは他の市町村もそうですけど、様々な自分たちの負担との戦いになるのではないかと思います。</p>
広報課長	<p>ご質問がないようですので、最後にその他で皆さんのほうで質問があれば若干お受けしたいと思っております。</p>
記者	<p>先日福島市の清明小学校のほうで、小型のカメラが設置されていたというような案件がありましたけれども、報告も受けられたと思いますが、市長としてどのように受け止められているのでしょうか。</p>
市長	<p>そのようなことが起きたという事は私としては大変残念に思っております。その後の調査の内容とかそういったことに関して私は実は聞いておりませんので、今後そういった推移を私としてしっかりと聞きした上で教育委員会にはこういったことが無いような対策というものをぜひとっていただきたいと考えております。</p>
広報課長	<p>閉会 あと他にございますか。よろしいでしょうか。それではご質問がないようですので、以上を持ちまして定例記者会見を終了します。皆さま大変お疲れ様でした。</p>